

# 横浜市大曽根保育園

## 福祉サービス第三者評価結果報告書



報告日 平成 24 年 3 月 1 日

福祉サービス第三者評価機関  
株式会社コモンズ 21 研究所

# 福祉サービス第三者評価結果報告書

## 目 次

1. かながわ福祉サービス第三者評価推進機構	
福祉サービス第三者評価結果報告書	1
2. 福祉サービス第三者評価結果報告書	
① 評価結果総括表	7
② 分類毎の評価結果	9
③ 利用者家族アンケート結果の特徴	27
④ 利用者家族アンケートの調査結果	27
⑤ 利用者本人調査結果の特徴	31
⑥ 事業者からの意見	32
3. 当社オリジナル報告書	
① 家族アンケート 各データグラフ (非公表)	33
② 家族アンケート施設への要望 (非公表)	38
③ 評価結果集計表 (非公表)	41
④ 自己評価／第三者評価 比較票 (非公表)	42～64

## r 横浜市福祉サービス第三者評価 評価結果総括表

事業所名	横浜市大曽根保育園	
報告書作成日	平成 24 年 3 月 1 日	(評価に要した期間6か月)
評価機関	コモンズ21研究所	

### 評価方法

自己評価方法 (実施期間:平成 23 年 9 月 15 日～11 月 13 日)	職員各々が自己評価をし、集計した内容を職員全体で確認し合い、園全体の評価を主任、園長を中心にまとめた。
評価調査員による評価方法 (実施日:平成 23 年 12 月 12 日、12 月 19 日)	ヒアリング対象者…園長・主任・保育士・調理員 施設観察… 12 月 12 日、12 月 19 日 書類審査等… 12 月 12 日、12 月 19 日
利用者家族アンケート実施方法 (実施期間:平成 23 年 10 月 3 日～10 月 21 日)	保育園より保護者へ配布。直接調査機関へ郵送にて回収。
利用者本人調査方法 (実施日:平成 23 年 12 月 12 日)	調査対象者… 本人調査 (3・4・5 歳児…6 名) 観察 (1 歳児～5 歳児)

### 評価結果についての講評

<p><b>&lt;園の概要・特徴&gt;</b> 横浜市立大曽根保育園は、東横線大倉山駅から徒歩 10 分の住宅地にあります。周辺には大倉山公園、文化財の大倉山記念館があり、子どもたちは梅林や四季の自然を楽しんでいます。横浜市立の認可保育園で昭和 31 年 4 月に設立され、開園後 54 年を経過し地域に溶け込み、温かい交流があります。在籍数 66 名(定員数 66 名)の小規模園で、古い樹木のある園庭、平屋の園舎を持つ家庭的な保育園です。特別保育として障がい児保育や地域の子育て支援を行っています。「元気に遊ぶ子・やる気のある子・やさしい子」を園目標に、自分を好きになり、友達も好きになれる思いやりの気持ちを育てています。</p> <p><b>&lt;特に優れている点&gt;</b> 1 主体性を育む保育環境向上への取り組み 運営方針に「安全で魅力的な環境を整える」を挙げ、園内外の保育環境の見直しに取り組んでいます。昨年度は、玩具を整理し、園にある玩具それぞれの特徴を記した「おもちゃのカタログ」を作り、季節や子どもの発達に応じた活用を容易にしました。今年度は、保育室内の環境整備に取り組み、机・椅子・戸棚の位置、コーナー、押入れ下の有効活用、壁面の使い方、美的な場所づくり、またメンテナンス必要箇所等の見直しを行いました。見直し結果をもとに、子どもが生活しやすい動線、主体的な活動ができる配置や使い方について全職員で知恵を絞り、各クラス、季節や活動ごとに、写真入りの A3 版大の「室内環境レイアウト」を作成しました。「室内環境レイアウト」を活用して半年、子どもたちが、一層落ち着いて遊びこむ姿が見られ、また片づけが身につくなどの効果も見られました。 また、保護者の協力を得て古いスノコを再利用し、テーブル4個と椅子8脚を制作して園庭に設置しました。子ども達がゆっくりと遊べる場となり、保護者とも連携して一層の保育環境向上に取り組んでいます。</p>
--

## 2 社会性の発達を促す取り組み

### ①計画的な異年齢保育

年齢を超えて、友達関係を広げ愛情や信頼関係を持つことをねらいにした年間計画を立て、合同保育の際には保育室のレイアウトを変えるなど、計画的な異年齢保育を行っています。計画では年間を4期に分け、期のねらいに沿って「行事」、「活動」、「伝承遊び」、「歌」の項目を設け、具体的な取り組みを示しています。「行事」では、運動会や秋の遠足、お楽しみ会で、一緒に活動する中で、異年齢混合グループ内などの友達への親しみを深めています。「伝承遊び」やリズム遊びでは、自分を表現しながら、同じ目的を持って活動することを楽しんでいます。

活動の中で、年少児は年長の子どもから刺激を受けて興味をふくらませ、年長児は生活や遊びを主体的に進め優しさを育むなど、子ども達の関係性が育っています。いつも引っ込み思案な子どもが、年下の子どもに交じって頑張っていたり、いつも譲らない子が譲ってあげたりと、子ども達ひとり一人に発達が見られます。

異年齢児とのかかわりを通して、憧れや意欲、優しい気持ちを育てています。

### ②積極的な地域交流

地域のボランティア「萌の会」による、毎月の絵本の読み聞かせや紙芝居、お話の活動が10年以上続いています。また、園児たちが焼いたスイートポテトを近隣に届け、近隣住民からは柿や七夕の笹、絵本等をもらうなど、園設立以来長い歴史を経て培われた、地域とのほのぼのとした交流があります。

近隣園とは、乳児と一緒に園庭での遊びを楽しみ、幼児がマツボックリでツリーを作る製作活動を一緒に行うなど、日常的に互いに訪問しあって交流しています。

また、100名以上の園児が集う、近隣4園合同のドッジボール大会にも参加しています。

近くの大倉山公園で催される観梅会では、近隣園と共に毎年子ども達が歌や踊りを行い、今年はソーラン節を舞台で披露するなど、地域の自然や文化を体験しています。

様々な、交流活動で子ども達は視野や経験を広げています。

### <改善を期待したい点>

#### 1、苦情や事故の情報蓄積を

苦情・要望・トラブルについて、また事故についての情報が、ミーティング記録や日誌に分散して記録されています。

今後の対応の参考にするため、また更なるサービスの向上を図るため、苦情などの情報、大小の事故の情報をそれぞれまとめて記録し、蓄積した情報を傾向の分析、検討などに役立てることが望まれます。

#### 2、保育方針への保護者の理解度の把握を

園の理念や保育方針、園目標などについては、掲示や懇談会等での説明など、折に触れて保護者への周知を図っていますが、それがどの程度理解されているかの把握には至っていません。


更なる保護者との信頼関係構築、また連携のため、園の保育の基本方針への保護者の理解度を把握する取り組みが望まれます。

# 評価機関による評価




3つ:高い水準にある、2つ:一定の水準にある、1つ:改善すべき点がある

## 評価領域 I 利用者本人(子ども本人)の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p><b>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すべての子どもたちが自分をかけがえのない存在と感じ、自信を持って生きていかれるよう保育を実施する」という理念を定め、利用者本人を尊重しています。保育士は、子どもへの日々の言葉掛け、子どもへの視点、指導計画、集団への保育などを通して一人ひとりをかけがえのない子どもと認識する保育を実践しています。</li> <li>・理念や園目標は「各クラスファイル」にとじ、年度末の反省会には再確認し、新年度の計画作成時には、理念や保育目標を基本に置いています。</li> <li>・保育課程に基づき、各クラス担任がクラス職員全体の意見を反映しながら、年間・月間の指導計画を立てています。園長及び主任の助言や指導の後、カリキュラム会議・職員会議に提案し、全職員で決定しています。週案・日案はクラスに任せ、現在の子どもが求める活動などから先の見通しを立て、子どもの動きにより、柔軟に変更できるよう取り組んでいます。</li> <li>・理解できる幼児には、視覚に訴える絵文字を使ったスケジュール表を用いて1日の活動を説明し、制作活動では作品をつくる工程を、分かりやすく具体的に示しながら説明しています。乳児には身振りを交えて次に行くことを語りかけています。ピクニックごっこではおもちゃのお弁当の現物を見せ、このようなお弁当を作ることを説明してから活動に入っています。</li> <li>・園は開設 54 年の歴史があり、地域の団体や近隣の方々との関わりを持ちながら、良好な関係が育まれてきています。周辺は、戸建住宅が多く高齢化が進み、在園児家庭など、子どものいる若年層の多くは、集合住宅に住んでいます。そのような状況を反映し、地域の祭りへの参加やお話ボランティアの受け入れ、子育て支援事業の実施など地域の実態、周辺の環境を考慮した保育課程を作成しています。</li> </ul>

評価分類	評価の理由(コメント)
<p><b>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に新年度の新入園児の保護者説明会を開催しています。入園に関わる13種類の資料を配布し、園の概要、入園時に準備するもの、育児に関すること、入園に対する子どもへの配慮などの説明を行っています。その際に希望する保護者との面談を行い、保護者から申し出のあった留意事項を書き留めています。</li> <li>・入園説明会では、入園のしおりにある“短縮保育のめやす”を用いて、ならし保育の説明を行っています。基本的な日数や時間は提示していますが、一人ひとりの子どもや保護者の状況に応じての対応をしています。1週間程度で多くの子どもは通常保育にはなっていますが、子どもの状況、保護者の状況や要望に、出来る限り添えるようにしています。</li> <li>・1歳児の主担当保育士は決まっており、おむつ替え、お昼寝、連絡帳の記帳など、日常の保育に同じ保育士がかかわることにより、子どもとの信頼関係を築いています。子どもの心の拠り所とするタオルなどを持ち込むことができます。乳児の場合は1～2か月の短い期間で自然に不要になりますが、幼児で入園する子どもの場合は長く愛用するケースもあり、園では気持ちの安定に必要と理解しています。</li> <li>・乳児には1日の保育を記述する連絡帳を使用し、個々の家庭と詳細な記録を取り交わし、子どもの生活の連続性に配慮しています。幼児ではクラス毎にホワイトボードに連絡事項を書き、「今日の活動」のノートにクラスの1日の活動の様子を記述し、保護者にお迎えの際に読んでもらっています。また、「連絡メモ」の用紙を用いて、必要に応じて個々の保護者との連絡を取っています。</li> <li>・毎月、最終週に1か月の振り返りを行い、次月の指導計画をクラス担任が作成しています。園長・主任に提出し、確認や指導を受けた後、カリキュラム会議で全職員の下承を得て決定しています。指導計画の中に「自己評価欄」と「取り組み状況と保育士の振り返り」の欄があり、職員自らの反省や子どもの状況を記録しています。年間指導計画は4期に分かれ、期を終了するごとに「自己評価」を行い、予定していたことが計画通りに進まないことや、子どもたちが栽培活動や異年齢保育などで自信をつけてきていることなどを、評価しています。</li> <li>・就学に向けて、身の回りのことができるように、パジャマを風呂敷で包むことや靴の紐を結ぶことなどの経験など、保護者の要望を反映させた取り組みを行っています。取組状況は個々の子どもの経過記録に記載しています。</li> <li>・園長や主任は説明会や入園式などで、親子の様子やかかわりなどに注意を払い、クラス担任に必要なに応じて気づいたことを伝えていますが、記録は取っていません。今後入園の際には子どもや保護者の様子を一人ひとり観察し、書面に残す形を取るとよいでしょう。</li> </ul>

評価分類	評価の理由(コメント)
<p data-bbox="181 344 533 374"><b>I-3 快適な施設環境の確保</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="667 344 1407 524">・清掃一覧表・清掃分担表があり、園内のすべての清掃について全職員がかかわり、分担しています。各保育室内の清掃はクラス担当が行い、清掃チェック表により毎日チェックし、園の内外ともに清潔に保たれています。玩具についても毎朝拭き、プラスチックや布の玩具など洗えるものは週に1回洗っています。砂場を含め園庭の土に関しては、放射線量を頻繁に計測し、安全に配慮しています。</li> <li data-bbox="667 562 1407 712">・54年を経過した園舎ですが、室内の通風はよく、トイレの臭気もなく不快感はありません。換気装置付きの空気清浄機があり、冬場の換気には注意を払っています。保育室は全室南に向いており、明るい陽光を十分受け入れることができます。夏は遮光ネットと、数か所に植えたゴーヤの緑のカーテンで紫外線を除けて、涼しく過ごすことができます。</li> <li data-bbox="667 750 1407 869">・園庭のシャワーはプールや泥んこ遊びなどの後に使用しています。乳児保育室の温水シャワー設備は、おもしろへの対応やおむつかぶれを防ぐために頻繁に使っています。朝登園してきた際などに、お尻が赤い時には優しくシャワーをして清潔に保っています。</li> <li data-bbox="667 907 1407 1086">・昨年度から継続して、室内環境を整備するプロジェクトチームを組み活動しています。各クラスの保育環境を見直し、季節ごとのレイアウトプランを、写真付きで作成しています。各保育室には絨毯やゴザが敷かれたコーナーがあり、手づくりの椅子とテーブルが置かれ、年齢に応じたままごとセットや絵本を配置しています。子どもの遊びを歓迎するような温かい雰囲気のプランで、小集団保育に向けた配慮をしています。</li> <li data-bbox="667 1124 1407 1211">・物理的な部屋の広さから、寝食を別の空間ですることは困難な状態ですが、使い方を工夫し、食事が終わると別の活動で、子どもを移動し、その間に寝具を整えています。</li> <li data-bbox="667 1249 1407 1391">・異年齢交流はプログラムを組んで毎週火曜日に実施しています。二部屋をつなげてオープンスペースにし、異年齢保育の室内環境を快適にするレイアウトで、リズムや伝承遊びなど合同保育を実施しています。日常的には朝の自由保育時間や夕方の延長保育の時間帯で異年齢の交流を行っています。</li> </ul>

評価分類	評価の理由(コメント)
<p data-bbox="178 640 657 703"><b>I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="668 338 1415 546">・1、2歳児については、月間指導計画でクラス全体の保育内容や環境構成、配慮事項を立案すると共に、個別の計画にもなっています。一人ひとりの子どもの様子や保育内容・配慮点を記載しています。例えば「言葉の数が増え、指差しで、「カエル」「ワンワン」など話したり、「ウンチ出た」と現在の状況を伝える姿も見られる」など、現在の子どもの様子が記述されています。また、「簡単な言葉のやり取りを楽しんでいく」等の保育内容・配慮点を記載しています。</li> <li data-bbox="668 584 1415 703">・個別の目標・計画は週案や日案で柔軟に変更しています。保護者と連携し、夏だけの持参としていた水筒を子どもの体調に合わせて毎日の持参とするなど、個別計画の変更をしています。園と家で同じ対応を取ることを保護者も了解しています。</li> <li data-bbox="668 741 1415 797">・保育所児童保育要録は、記載後書留で子どもの就学する小学校へ郵送し、学校からの受領証の返送を受けています。</li> <li data-bbox="668 835 1415 983">・子どもの記録は児童票・児童健康台帳・経過記録等、所定のシートに記載し、一人ひとりの子どもの状況を把握できるようにしています。入園後の成長発達については、一人ひとりの経過記録に成長の様子を記録しています。子どもの記録は、職員室の鍵のかかる棚に保管し、保育に関わる職員は閲覧することができます。</li> <li data-bbox="668 1021 1415 1106">・進級時には新・旧担任で、引き継ぎを行っています。クラスのこと、保護者への対応、子どもの留意点など子どもの経過記録には記述していない対応等を伝えています。</li> </ul>



評価分類	評価の理由(コメント)
<p data-bbox="181 817 646 884"><b>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="667 347 1412 470">・特に配慮を要する子どもについては、個別のケースについて問題解決の手段も含めて全職員で話し合いをしています。必要に応じて主担当を決め、記録を取っています。乳児会議・幼児会議において、必要な情報を交換し、子どもへの対応について話し合い保育に活かしています。</li> <li data-bbox="667 504 1412 593">・障がいのある子どもが穏やかに過ごせる場所として、保育室内をパーティションで区切り、コーナーを作っています。トイレの目のつかない所におむつ置き場を作り、トイレに来た時のプライバシーに配慮しています。</li> <li data-bbox="667 627 1412 750">・障がいのある子ども一人ひとりの「障がい児指導計画」が立てられ、ねらい、環境構成、子どもの様子、内容、配慮及び援助、反省の項目を設け、3ヶ月に1度見直しています。全職員が内容を理解し、子どもに対する対応の仕方を学び、同じ対応ができるよう標準化を心がけています。</li> <li data-bbox="667 784 1412 963">・障がいのある子どもと他の子どもは一緒に育ちながら、自然に認め合い助け合っています。こだわりの強い子どもには、特定の気に入った子どもの前では着替えをスムーズに行うなどの特徴があり、気に入られた子が自然に助けている場面も見られました。障がいのある子どもの母親が懇談会で他の保護者に向けて、我が子の実情を話すなど、オープンに障がいに対する理解を求めるケースもあります。</li> <li data-bbox="667 996 1412 1086">・港北区主催の「子ども虐待への理解」の研修に、アルバイト職員も含めた全職員が参加しています。朝の健康観察や着替えの際の身体観察、また母親の子どもへの対応などに注意を払っています。</li> <li data-bbox="667 1120 1412 1209">・自分から関わりを持とうとしない保護者に対しては、職員から声をかけ、コミュニケーションを図っています。保護者本人が、「最近イライラしている」などと、打ち明けてくることもあります。</li> <li data-bbox="667 1243 1412 1332">・アレルギー対応食は、他の子ども達への配膳の前に除去食専用の食器で、トレイに名札を置き、配膳されています。タンパク質類のものが除去された時には他のおかずを多めにしています。</li> <li data-bbox="667 1366 1412 1456">・外国籍の保護者などとの、文化や生活習慣の違いによる考え方の相違で、難しい対応が必要である場合にも、常に保護者との話し合いをしながら進めています。</li> </ul>

評価分類	評価の理由(コメント)
<p><b>I-6 苦情解決体制</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者委員の名前、連絡先は「入園のしおり」に記載され入園説明会で保護者に説明しています。運動会や生活発表会、お正月遊びの会などの行事の時には来園し、保護者と交流しています。年に2回、他園の園長も交えて第三者委員とは状況報告や情報交換を行っています。</li> <li>・意見箱は保護者が送り迎えで利用する園庭側に設置し、入れやすい環境にしてあります。懇談会や行事ごとにアンケートを実施し保護者からの要望を把握しています。生活発表会の行事について「成長がみられるように発表してほしい」「震災などの緊急時にはメールで連絡が取れるようにしてほしい」等の要望が出されました。区として、24年度よりツイッターの運用を開始します。公立保育所の災害時の情報を、区の公式アカウントから発信する予定になっています。</li> <li>・自分で意見を表明するのが困難な子どもについては、表情や行動を見て気持ちを捉えています。また自分の意向を伝えるのが困難な保護者に対しては気持ちの良い挨拶、笑顔、一声かけるなどコミュニケーションをとるよう気配りしています。要望や苦情については直近のミーティングや会議で報告され、対応についても報告し全職員への周知を図っています。</li> <li>・苦情・要望やトラブルに関する具体的な内容や対応、改善等については、ミーティングの記録や各クラスの日誌などに記録していますが、今後の対応の参考にするため、要望や苦情などをまとめた記録を残すことが望まれます。</li> <li>・園長を要望・苦情受け付け担当者とし、入園説明会や懇談会で口頭で説明しています。さらに苦情受付担当者名や苦情解決の仕組みの園内への掲示や入園のしおりへの明記など、保護者が要望や意見を言いやすくする工夫があると良いでしょう。</li> </ul>

## 評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>Ⅱ-1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は遊びの室内環境について昨年度から園内研修を行い、子どもが興味を持ち、主体的に遊べる環境について計画的に検討を続けています。ブロックや絵本、ままごとなどの玩具は子どもが自分で取出し、片付けやすいよう写真や絵を貼って収納し、玩具に興味を持ち取り出して遊べるよう配慮されています。</li> <li>・昨年度は園にある玩具の写真を取り、特徴などを記入した冊子を作成し、クラスごとの発達に応じた環境構成にするために役立て継続して検討しています。3、4歳児のままごとコーナーにはキッチンセットやお人形、手作りのドーナツやパン、アイスなどの玩具を置き、ごっこ遊びが豊かになるよう配慮されています。また、各保育室は年齢にふさわしい絵本を用意したコーナー、乳児にはつかまり立ちができるコーナーを設置し、環境構成に配慮しています。</li> <li>・職員が絵本の読み聞かせを行ったのをきっかけに、子どもから、いろいろな意見・発想が出て、自分たちでお話を作り劇遊びに発展しています。劇をお楽しみ会で披露するなど、自主性を大切にし、さらに発展していけるようにしています。</li> <li>・5歳児は、大会に向けてルールのあるドッチボールをみんなで一緒に楽しみ、円形ドッチボール、しっぽ取り鬼ごっこ、むっくりくまさんなどルールのある遊びを年齢に応じて取り入れています。</li> <li>・年間を4期に分けた食育年間計画をもとに、稲やじゃが芋、とうもろこし、小玉すいか、枝豆、さつまいも、パプリカなどを栽培して収穫までの体験をしています。サツマイモでスイートポテトを作ったり、パプリカでスタンプ遊びをしたりして、保育活動に取り入れています。</li> <li>・子どもたちは散歩マップを見ながら話し合い、ログハウスや見晴らし公園などに散歩に出かけています。商店街を見学したり、年長児は地域の野菜直売所に給食の食材を買いに行きます。また、近くの土手ではシロツメクサで首飾りを作ったり、梅林公園ではカエルの卵をとって育てるなど自然に触れる体験をしています。</li> <li>・毛糸や牛乳パック、紙などの素材のほか、あやとりや絵本など子どもがすぐに取り出せるように配慮し、片付けやすいように写真を貼って収納するなど工夫しています。またコーナーは季節や興味で配置や内容を変更し、子どもたちが興味を持って遊ぶよう配慮しています。</li> <li>・異年齢計画を作成し、3～5歳児は毎週1日、とまとグループ、たまねぎグループに分かれて、リズム遊びやわらべ歌、ゲームなどの活動をしています。活動の中で異年齢の子どもが関わり、交流を深めています。園庭で遊ぶ時にはお互いに声をかけ、一緒に遊ぶなど自然に関わりが持て、信頼関係が育つよう配慮しています。</li> <li>・園庭での遊びは乳児と幼児の使用時間をずらし、幼児は十分体を使ってドッチボールなどを楽しめるようにしています。また、散歩は目的によって場所を選んでいきます。マラソンコースを走ったり、ラセン滑り台やロープのジャングルジムなどの固定遊具や、斜面の昇り降り運動能力を高め、発達段階に応じて距離をのばすなど配慮しています。</li> </ul>

評価分類	評価の理由(コメント)
<p data-bbox="177 342 464 371">II-1 保育内容[生活]</p> <div data-bbox="248 434 608 539" style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="667 342 1410 495">・4歳児からは、グループから1人順番で、お当番になって、ご飯やみそ汁、おかずの並べ方に注意して配膳を手伝います。また、食育年間計画を作成し、栽培を通して食材に関心を持ち、調理に関わることで、健康と食べ物についての関係に関心を持つようにしています。幼児はトウモロコシの皮むき、いんげんのスジ取りなどを行っています。</li> <li data-bbox="667 533 1410 685">・調理員が冷蔵庫の温度管理を毎朝行い、給食日誌に記載しています。食材は納品時に検品して冷蔵保管しています。できるだけ地産地消を心がけ、野菜や肉など食材の産地を表示して保護者に伝えています。子どもが使用する食器は磁器食器を使用し、定期的に新しい食器に交換しています。</li> <li data-bbox="667 723 1410 808">・食器は家庭的なものを使い、成長や発達によって、両手付のマグカップや、お皿の深さ、スプーンの大きさ、箸の使用時期などに配慮し、ふさわしいものを使用しています。</li> <li data-bbox="667 846 1410 931">・喫食状況は給食日誌に記録し、「ミーティング」や「カリキュラム会議」で話し合っています。残食の多かったメニューに関しては、献立反省を生かし次回から調理方法を変える等の工夫をしています。</li> <li data-bbox="667 969 1410 1122">・廊下に給食のサンプルを展示しています。5月の園だよりには筍料理アラカルト、6月には牛肉の韓国風焼きやナムル、9月には豆腐サラダなど、季節のレシピや子どもに人気のあるレシピを紹介しています。パクパクだより(給食便り)やクラスノートにも人気メニューを記載して保護者が子どもの好きなメニューを手作りできるように配慮しています。</li> <li data-bbox="667 1160 1410 1245">・眠れない子どもや眠くない子どもには職員が側で見守り、布団に入って体を休めるようにしていますが、眠れない時はプレイルームで過ごすなど、一人一人の状況や成長に合わせて柔軟に対応しています。</li> <li data-bbox="667 1283 1410 1400">・トイレトレーニング中の子どもには、おむつのぬれ具合で排泄のリズムを把握し、嫌がらなければトイレに座ってみるように促します。また、子どもをトイレに誘う時間を決め一斉に声掛けしたり、個々の発達に応じた排泄リズムに合わせて、個別対応もしています。</li> </ul>

**II-2 健康管理・衛生管理・安全管理**  
**[健康管理]**



・横浜市の看護師が作成した保健計画があり、登園時の観察ポイントを明記した「健康観察」をもとに子どもの顔や全身状態を観察したり、送迎時に保護者からの話しや連絡帳で情報を把握し、子どもの健康状態に留意しています。

・転んで傷を負ったり、一時だけ腹痛を訴えたがすぐ直ったなど、保護者に連絡する子どもの健康状態は、「連絡メモ」に記入し手渡しするとともに、担当が残って詳しく伝えていきます。

・健康診断は年2回実施し、児童健康台帳に医師の所見を記録し、個々の「健康の記録」に身長・体重や健康診査の結果を記載して保護者に確認してもらい園で保管しています。歯科健診は年1回実施し、市所定の用紙に記録しクラスごとにファイルしています。

・感染症に対する予防や疑いがある場合、発症した場合の対応について記載したマニュアルがあります。また、入園時保護者に配付する市作成の保存版「保育園のご案内」に乳幼児がかかりやすい主な感染症を記載しています。感染症にかかった場合の登園時期のめやすは、別紙に明記するとともに登園許可証明書の提出を求めています。

評価分類

評価の理由(コメント)

**II-2 健康管理・衛生管理・安全管理**  
**[衛生管理]**



・感染症についてのマニュアルの中に衛生管理に関する具体的な手順が述べられています。

・職員は採用時にマニュアルについて園長から説明を受け、マニュアルの内容を共有しています。また、年1回、職員や調理員は衛生研修を受講し、職員会議やカリキュラム会議で研修内容について確認し周知しています。

・マニュアルをもとに掃除一覧表を作成し、掃除方法や回数、担当を明記し、チェック表を用いての毎日の清潔で適切な状態が保たれています。

・マニュアルは、年度末1～3月にかけて全職員が参加するカリキュラム会議で見直しを行っています。また市や区からの通達で消毒方法や対応の仕方が変更になった場合は、必要に応じて職員会議や乳・幼児会議で周知しています。

・マニュアルの見直しを行い改訂した場合は、日時を記載しておくとともに良いでしょう。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理  
[安全管理]



・園内外の安全に関する安全保育マニュアル、災害に対応する防災マニュアルがあり、防災組織図のもとに安全体制を整えています。

・災害に対応する緊急連絡体制は、「事故発生時の対応」と「緊急時連絡施設」に連絡先を記載し、避難場所や避難方法を明記して職員に周知しています。

・避難訓練計画を立て火災や地震に対応した避難訓練を毎月実施しています。消防署への通報訓練を年1回実施しています。

・園内外での事故やケガについて「事故発生時の対応」に手順や連絡体制が記載されています。

・不審者侵入時対応マニュアルをもとに防犯訓練計画を作成して、あらゆる場合を想定した不審者侵入対策訓練を毎月実施しています。その中で区防犯担当の協力を得て子ども、職員向けに不審者侵入防止訓練や通報訓練を実施しています。

・事故に対する情報は全職員が参加する日々のミーティングで共有し、再発防止の検討を行っています。しかし記録はミーティングノートに、改善策は日誌に記録されるにとどまっています。再発防止に向け、事例の検討を行うためにも、ヒヤリハットや事故報告書の整理がされるとさらに良いでしょう。

・不審者侵入の防止策として、保護者や子どもが使用する門は、時間帯を決めて電子錠で施錠しています。職員の通用門は外部の人の訪問が確認できますが、園庭との間の扉は念のため施錠するとさらに良いでしょう。

評価分類

評価の理由(コメント)

II-3 人権の尊重



・職員は年度初めに「保育で大切にしていること」や「子どもへの接し方」などを記載した書類をもとに話し合い、子どもの叱り方や呼び方、対応について配慮しています。また、港北区の人権研修を受講し、子どもの人格を尊重するよう意識して保育に取り組んでいます。園長、主任は、職員に不適切な発言があった場合には注意を促しています。

・玄関横の長椅子のある絵本コーナーや各クラスの遊びのコーナー、布団収納の下など、子どもが、友達や保育士の視線を意識せず過ごせるようになっています。

・職員の横浜市職員服務規程の中に守秘義務について記載され、職員は入職時に研修を受けています。ボランティアや実習生にはそれぞれオリエンテーションで守秘義務に関することを明記した書類を配付し、説明しています。

・保護者には入園時説明会で、保育園各箇所に表示すること、運動会の写真撮影、園だよりへの記載、ホームページへの写真の掲載などについて、紙面で了解または承諾を得ています。

・子どもや保護者に対して、父親・母親の役割について固定的なとらえ方をしないよう、日頃から注意して話すようにしています。また、そのような表現があった場合は、その都度職員間で話し合っています。

・年度初めに指導計画を立てる際、性差について話し合い、職員は共通認識を持ち保育にあたっています。園長、主任が折に触れて話をし、性差による固定観念で保育をしていないか注意し合っています。



評価分類	評価の理由(コメント)
<p data-bbox="177 927 517 958"><b>Ⅱ-4 保護者との交流・連携</b></p> <div data-bbox="247 999 608 1102" style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育理念や保育目標、保育姿勢などを保育室に掲示し、保護者が送迎時に確認できるようにしており、入園説明会や年2回の懇談会で保護者に基本方針や園・クラスの目標について説明しています。</li> <li>・乳児については、保護者が連絡帳に家庭での食事や睡眠、特に伝えたい事項を記入し、園からは家庭からの情報を踏まえた園での様子を記入し情報交換を行っています。幼児については園から知らせたい事項があった場合は、所定の用紙「連絡メモ」に書き、言葉を添えて保護者に伝えていきます。</li> <li>・個別面談は年1回、1週間の期間を設けて保護者の希望する日に実施しています。また、必要に応じて保護者から希望があった場合は随時実施しています。</li> <li>・相談は人に聞かれないよう事務所で受けることがほとんどですが、誰が相談しているのかわからないように配慮する場合はプレイルームを使用しています。また、相談を受けた場合は所定の用紙に相談内容を記録し、対応が難しい場合は園長と一緒に相談を受けることもあります。難しい相談を受けた職員は、園長や主任からアドバイスを得られる体制になっています。</li> <li>・園だよりやクラスだよりは毎月初めに、市作成の給食だよりは前月の月末にそれぞれ配布しています。また市作成の保健だより「すくすく」を年6回保護者に配布しています。</li> <li>・クラス懇談会では日常の保育の様子や行事の内容などを説明したり、写真に撮り掲示しています。また、他園との交流風景や、子どもたちが野菜を栽培している様子、給食のカレーを食べている様子などを、年4回壁新聞として写真や言葉を入れてクラスごとに掲示し、日常の保育を伝えるようにしています。</li> <li>・昨年の保育参加は3～5歳児の異年齢グループに分かれてわらべ歌や凧づくり、コマ回しなどの伝承遊びを一緒に楽しみました。今年度は各クラスごとに活動を変え、保護者と一緒に散歩に出掛けシロツメクサで冠を作ったり、一緒に椅子取りゲームをして遊んだりしました。ほぼ全員の保護者の参加がありますが、仕事の都合で来られなかった保護者のために、当日の様子を伝え、いつでも参加を受け入れることを伝えていきます。</li> <li>・保護者会からの要請で園がカメラを預かり、日常の保育の様子を毎月写真に撮っています。園長は総会や役員会に参加し、保護者会主催の行事や、園主催の行事への相互の協力について話し合い、常にコミュニケーションを図っています。</li> </ul>

### 評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由(コメント)
<p><b>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>•地域の人たちに向けて園庭開放を毎週水曜日に実施しています。直接相談を受けたり、アンケートを実施し保育園に対するニーズを捉えたりしています。</li> <li>•毎週水曜日(10:00~12:00)は相談日になっており、園の職員と共にコーディネーター(有償ボランティア)が対応しています。区の子育て支援センター園での相談事業にも職員が参加しています。相談の中には、子どもが他の子の玩具を取ってしまうと親が悩んでいるケースがありました。2歳児の特徴であり、園庭開放に参加することを勧めるなど保護者の不安を和らげています。</li> <li>•園長は、港北区社会福祉協議会の保育分科会で地域の子育て支援者との会合を持っています。分科会が実施する年2回の話し合いや、おもちゃコンサルタントやわらべ歌の講師を迎えての研修会に参加し、地域の子育て支援に関するニーズの把握を行っています。</li> <li>•近隣地域には子育て中の家庭も多いことから、子育て支援事業を保育課程中に位置づけています。前年度末に新年度の子育て支援事業をどのように展開していくか、プラン作りから実施まで全職員で検討しています。</li> <li>•地域の子育て支援サービスとして園庭開放(毎週水曜日)、ランチ交流(第1・第3水曜日、年17回)、交流保育(水遊び、泥んこ遊び、リズム遊び、運動会ごっこ、節分等年6回)などを行い、地域の乳幼児と保護者に参加を呼びかけています。更に、子育て情報を提供するイベント「わくわく子育て広場」への参加や、乳児親子の仲間作りと情報交換の場「赤ちゃん会」での遊びの提供、子育て支援拠点との交流事業など、多くの地域への子育て支援を行っています。</li> <li>•園独自で、地域住民向けの講習会や研修会は実施していませんが、区内の子育て支援事業に参加し、保育園の遊びや育児について1歳までの母子を対象に講習を行うなど地域住民へのサービスを行っています。</li> </ul>
<p><b>Ⅲ-2 保育所の専門性を活かした相談機能</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>•毎週水曜日の午前中に園庭開放を行っており、その際に育児相談に応じています。電話での相談や園見学の問い合わせ等に開園中は常時対応しています。また各種の園で予定するイベント情報を伝えたり、子育てパンフレット等を提供しています。</li> <li>•港北区内の子育て支援事業を行う保育園の活動内容が、「港北区公立保育園の地域子育て支援事業年間計画」というパンフレットにまとめられています。区の保健福祉センターこども家庭支援課が発行し、地域住民に広報・配布しています。</li> <li>•育児相談の際など、日常的に必要とする関係機関や団体の電話番号を電話帳リストにまとめて、職員が共有して使用しています。関係機関との連絡担当者は園長です。</li> <li>•区子ども家庭支援課、地域療育センターであるリハビリテーションセンター、児童相談所、小学校等とは日常的に連携を取っています。</li> </ul>



## 評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>IV-1 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会の案内を近隣住民にしています。劇団による人形劇やG30のイベントには日ごろ子育てで参加されるメンバー(園の子育て支援事業に参加する、地域の未就園児親子)をお誘いしています。</li> <li>・地域の中学校2年生、10名程の体験学習・保育体験を受け入れていいます。4名の高校生がボランティアとして保育に参加しています。</li> <li>・プレイルームを地域の子育てマップ作りのグループに提供したり、他の保育園に鈴割の球を貸すなど、保育園に対する理解を深めてもらう取り組みをしています。</li> <li>・子どもたちが作ったスイートポテトを近隣に届け、お返しに柿をもらったり、絵を描いてきてくれたりとの交流があります。町内会の役員から七夕の笹をもらうなど、古くからの付き合いを継続しています。</li> <li>・年長児がこどもログハウスを利用したり、地域の野菜直売所に給食の食材を買いに行ったり、園芸店へはアサガオの苗を買いに行くなど、地域のレジャー施設や商店を利用し、子ども達の地域での生活体験の機会を設けています。</li> <li>・地域の自治会館利用者サークルの太極拳グループと、コマやけん玉等の伝承遊びで交流しています。地域住民からの使用しなくなった絵本や積木、育児書、未使用の折り紙・サッカーボール、タオルなどの提供もあり、地域に愛されていることを職員たちは実感しています。</li> <li>・近隣の公・私立保育園とは園児同志、互いに交流しています。小学校の1年生の授業を見る参観や学校探検、老人会との交流など、地域の施設との交流があります。</li> <li>・毎年恒例の大倉山観梅会には、子ども達も近隣の園の子ども達と舞台上り、歌をうたったりソーラン節を踊ります。昨年は港北区民祭りにも参加しました。</li> <li>・日常的に地域住民との交流は行われていますが、自治会やボランティアグループなど、地域の団体との定期的、計画的な交流が望まれます。</li> </ul>

#### IV-2 サービス内容等に関する情報提供



・園のパンフレットや横浜市のホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」、民間団体による「幼稚園・保育園案内」で園の情報を提供しています。保育方針、年間行事、独自の保育サービス、保育料以外の保護者負担等の情報を利用希望者に分かりやすいように提供しています。

・地域の子育て支援NPO団体の発行する「幼稚園・保育所案内」に保育園情報を提供しており、遊具の種類や保育料以外にかかる費用、入園時に必要なもの、おむつの種類、更に保護者からの情報として生の声が寄せられています。

・利用希望者からの電話では、「何名入れるか、保育時間帯、ねらい・目標、生活内容、行事など」が主に聞かれる内容です。これらの内容の分かるリーフレットを用意し、電話にどの職員が出ても問い合わせに対応できるようにしています。

・見学については平日のみでなく、土曜日にも可能なことを伝えています。子どもの様子を見学したいなら午前10時ごろ、園の概要や環境だけであるなら午睡の時間を知らせています。見学者の希望に沿うように時間を設定し、保育に支障のないように配慮しています。

#### 評価分類

#### 評価の理由(コメント)

#### IV-3 ボランティア・実習の受け入れ



・「ボランティア体験へようこそ」という書面を用い、ボランティアに対して時間、守秘義務、持ち物・服装、留意事項を伝えています。

・ボランティアの受け入れが決まると職員会議で、ボランティア受け入れについての園の基本的な考え方・方針を伝えています。子どもたちには前日の朝の会で伝えています。ボランティア育成の担当職員を置き、「ボランティア受け入れ一覧表」や「ボランティア体験者受け入れ調査票」「ボランティア体験個人票」に記録しています。

・ボランティアには終了する際に感想の提出を受けています。「絵本の順番などでけんかが起きている場面も見られ、折り合いをつけながら関わっていくことが出来ない」などのボランティアの感想は、職員の保育の見直しの参考にもしています。

・実習生の受け入れが決まると職員会議で、実習生受け入れについての園の基本的な考え方・方針を伝えています。子どもたちには前日の朝の会で伝えています。園だよりやクラスノートを使い、実習生受け入れについて保護者に理解を求めています。受け入れの担当者は主任やリーダー保育士で、「実習生受け入れ一覧表」、日程表等の記録を整備しています。

・「大曽根保育園で実習を進めるにあたって」というマニュアルがあり、一般のマナー、安全に対する責任、実習のポイント等について記述され、実習生に説明しています。

・実習には責任実習(任せる部分がある)と部分実習(本を読むなど一こまを担当)があり、希望により日案に沿い、プログラムを組んでいます。


・実習生の反省会を設け意見や感想を聞いています。「言葉かけが難しい」「自分のことで精いっぱい」等の感想があがっています。

## 評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員配置は横浜市の人事制度により、正規職員は横浜市全体で行い、アルバイト職員は有資格者を基本として園が採用し必要な人材補充を行っています。園長は職員の能力や経験などを考慮したうえでクラス配置や全体構成を行っています。</li> <li>・横浜市総務局で今年度作成した、全職員版「横浜市人材育成ビジョン」があり、「横浜市保育士人材育成計画」をもとに人材育成を行っています。計画は保育士に求められる役割・能力として、新採用から20年以上の経験年数による、段階ごとに期待される役割・姿勢、必要とされる知識・技術、育成方法、受講必須研修などが明記され、これをもとに、各職員の目標に向けた人材育成が行われています。また、区の園長会が主体となって行う人材育成計画があり、経験に応じた人材育成が行われています。</li> <li>・内部研修は年間の予定を立て保育士、嘱託福祉員、アルバイト職員を対象に子どもの環境についての検討や、わらべ歌遊び、手作り玩具などについて研修を計画し実施しています。</li> <li>・外部研修は、計画的に職種別に市や区で研修が行われています。正規職員は市主催の保育所職員人権研修や、障がい児保育基礎講座、保育実践講座などを受講し、福祉員は市や区で年間3回、アルバイト職員は市・区で年間2回の研修を受け、カリキュラム会議で報告しています。また、区が主任・リーダー・調理員・アルバイト・福祉員研修などを計画的に実施し、それぞれの職員が積極的に受講しています。</li> <li>・非常勤職員の保育技術の指導は、主任が担当しています。また、非常勤職員もカリキュラム会議に参加し、情報を共有して保育にあたり、職員間のコミュニケーションが図られるよう配慮しています。</li> </ul>

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は年度始めに設定した目標について年度末に振り返りを行い、自己申告書や研修手帳をもとに園長との面談を通して、到達度の評価を行っています。園としては行事ごとに保護者にアンケートをとったり、懇談会で意見を聴いて園としての課題を抽出し、園全体で話し合っています。また、民間園の保育士と一緒に、区全体の育児支援計画(わくわく子育て広場)等の企画、実施を通して、公私立保育所の保育の質の向上を図っています。</li> <li>・1～5歳児までの年間指導計画には自己評価欄を、月間指導計画には自己評価欄、とり組みの状況と保育士の振り返りの欄をそれぞれ設け、カリキュラム会議で振り返りを行い次年度、次月に活かしています。</li> <li>・今年度作成した「保育士の自己評価」のチェックシートを活用し、保育士一人一人が自己評価による課題を立て、次年度に活かせるよう取り組んでいます。</li> <li>・「保育士の自己評価」は保育理念や子どもの発達援助、保護者に対する支援、保育を支える組織基盤の評価項目ごとに評価基準を設けて記入するように作成されており、園の理念や方針に沿って実施されています。</li> <li>・職員の「保育士の自己評価」などを基に、今年度末からは園としての課題の検討やその改善に取り組んでいく予定があります。</li> <li>・園の自己評価を公表することが期待されます。</li> </ul>
<p>V-3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市こども青少年局による人材育成計画に「保育士に求められる役割・能力」として、経験や能力に応じた役割、姿勢、知識や技術などの期待水準が明文化されています。また、個々の職員が携帯する研修手帳に明記されています。</li> <li>・業務の役割分担を決め、分担された業務の判断は職員が行っています。個別処遇の判断などクラス運営については担任が判断し業務を行い、主任が助言し園長が報告を受け確認しています。最終責任は園長であることを職員も園長も、ともに認識しています。</li> <li>・ミーティングや園長との面談、回覧などで一人一人の職員からコメントの提出を受け、KJ法による、課題をカード化しての分類・分析を行い、今年度は防災についてマニュアルの見直しなど業務改善を行っています。</li> <li>・年3回行われる園長との面談で職員の要望や意見、目標達成についての評価や反省を聴き、次年度に活かせるよう助言しています。</li> </ul>

## 評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織及び職員が不正・不適切な行為を行わないよう横浜市職員服務規程や横浜市職員行動基準を職員室に掲示すると共に職員に配布しています。</li> <li>・横浜市の財政状況については公開されています。</li> <li>・区の子ども家庭支援担当から、事務の処理ミスや連絡帳の渡し間違えなど、他施設での事例が情報として届きます。事例として取り上げ職員に伝達し意識を高めています。</li> <li>・保育環境ISO担当を決め、ごみ減量化等環境保全について園全体で取り組んでいます。エコ計画書を作り各クラスと調理室でそれぞれ目的、子どもの活動、配慮点を挙げて活動しています。園内には「燃えるごみ・プラスチック・紙ごみ」と分けられたごみ入れを設置しています。古いスノコを再利用して保護者と一緒にテーブルや椅子を制作し、園庭で子どもたちが活用しています。</li> <li>・冷暖房のスイッチをこまめに切るなど節電に取り組み、消費電力量昨年度比、20%削減を図っています。ゴーヤを植え、日よけと緑化に努めました。保護者からもらった古布で各自の縄跳びを園児が編み、再利用が子どもの生活や遊びに潤いを与えています。</li> </ul>

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- ・理念や基本方針、園目標は各クラスに明示しています。職員は年度の反省会や次年度の計画策定で理念・基本方針等を念頭に置き指導計画等を立案しています。年度始め及び年度末の年2回、職員に理念や方針を説明しています。
- ・待機児童対策のため乳児の受け入れ枠の拡大が、横浜市によって決定されています。それに伴う園舎の増築についても、保護者会の総会や役員会で説明を行っています。
- ・園舎の増築については全職員で検討チームを編成し、準備に取り組んでいます。
- ・主任は各職員のカリキュラムの作成指導・助言、行事等の進捗状況の確認など、個々の職員の業務状況を把握し、園運営が有効に機能するよう努めています。また、個々の職員の経験や能力に応じ、業務に対して的確な指導や助言を行っています。また、職員の精神的ストレスや健康状態などにも配慮しています。
- ・職員の日ごろの子どもへの接し方や、指導計画内容で理念や方針の職員への理解を確認していますが、アンケートなど、直接確認する機会を定期的に設けるとさらによいでしょう。

評価分類

評価の理由(コメント)

VI-3 効率的な運営



- ・園長は、区園長会、責任職会議、区社会福祉協議会保育部会、自主勉強会等に参加し、園運営に関わる情報を収集・分析し、必要なことを職員や保護者に伝達しています。
- ・今回の園増築計画については新年度の保育に関する重要案件であり、職員に伝達し重点課題として設定しています。
- ・園庭や保育室の整備の図面などを用いて、クラスの仕切りをどうするか、水道の位置、収納場所、調理器具等、職員会議で議論し対策を立てています。

# 利用者家族アンケート

## 結果の特徴

保護者アンケート実施 平成23年10月3日～21日

配布数55通 回収数37通 回収率67.3%

<特徴>

総合満足度は、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が86.5%と高い数字がでています。「とても子ども達のことを考えてくれる園で、安心して預けられます」等の感謝の言葉が寄せられています。お子さんが保育園生活を楽しくしているかについても、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が86.5%と高い満足度となっています。一方で職員が話しやすい雰囲気であるかについては、「どちらかといえば不満」「不満」の合計が16.2%あり、「先生の数をもっと増やして」や「いつも忙しそうに感じます」等の意見が複数ありました。

日常保育:遊びについては「満足」「どちらかといえば満足」の合計の平均が84.7%となっており、中でも「園のおもちゃ教材について(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)」は「満足」「どちらかといえば満足」の合計が89.2%、「遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについて」、「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動について」は共に同86.5%と高い満足度となっています。

日常保育:生活についての「満足」「どちらかといえば満足」の合計の平均は84.6%で「給食の献立内容について」「基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについて」は共に「満足」「どちらかといえば満足」の合計が91.9%と高い満足度を得ています。一方で「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には」については「どちらかといえば不満」「不満」の合計が21.6%あり、「子どものケガが多過ぎる」という意見も寄せられています。

園と保護者との連携・交流について「満足」「どちらかといえば満足」の合計の平均は82.6%で、「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会について」は「満足」「どちらかといえば満足」は合わせて89.2%となっています。一方で「送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換について」は「どちらかといえば不満」「不満」合わせて21.6%となっており、「お迎えの時、先生から何も報告がないことがあります」等の意見もありました。

保育園の快適さや安全対策については「満足」「どちらかといえば満足」の合計の平均は70.9%ですが「施設設備については」「どちらかといえば不満」「不満」の合計が29.7%、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」は同27%となっており、「外壁、柵が低くて乗り越えようとするれば可能なのでは」と心配する声も複数ありました。

## 調査結果

### ■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	16.2%	56.8%	5.4%	18.9%	0.0%	2.7%

100.0%



問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

#### 付問1

理念や方針への共感	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	70.4%	29.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

100.0%



■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答		
a	見学の受け入れについては	51.4%	24.3%	2.7%	0.0%	21.6%	0.0%	100.0%
	その他:見学はしていない							
b	入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	40.5%	45.9%	10.8%	0.0%	2.7%	0.0%	100.0%
	その他:							
c	園の目標や方針についての説明には	37.8%	45.9%	8.1%	2.7%	5.4%	0.0%	100.0%
	その他: あまり目標や方針についてのお話がなかったと思います。							
d	入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	29.7%	37.8%	2.7%	2.7%	27.0%	0.0%	100.0%
	その他:面接はなかった							
e	保育園での1日の過ごし方についての説明には	51.4%	43.2%	0.0%	5.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他:							
f	費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかを含めて)	48.6%	45.9%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他:園長先生がとても優しくいつも相談に乗って下さいます。							

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答		
a	年間の保育や行事についての説明には	37.8%	48.6%	8.1%	5.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他:当初の日程を変更になることがあった。							
b	年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	35.1%	37.8%	10.8%	2.7%	8.1%	5.4%	100.0%
	その他:まだ参加した事がないのでよくわかりません。							

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答		
a	クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	54.1%	29.7%	5.4%	2.7%	2.7%	5.4%	100.0%
	その他:							
b	子どもが戸外遊びを十分しているかについては	54.1%	27.0%	2.7%	2.7%	8.1%	5.4%	100.0%
	その他:							
c	園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	56.8%	32.4%	0.0%	2.7%	2.7%	5.4%	100.0%
	その他:							



d	自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	56.8%	29.7%	2.7%	2.7%	2.7%	5.4%	100.0%
	その他:							
e	遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	51.4%	29.7%	8.1%	2.7%	2.7%	5.4%	100.0%
	その他:							
f	遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	56.8%	29.7%	2.7%	2.7%	2.7%	5.4%	100.0%
	その他:							

生活について		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	
g	給食の献立内容については	73.0%	18.9%	2.7%	0.0%	0.0%	5.4%	100.0%
	その他:							
h	お子さんが給食を楽しんでいるかについては	54.1%	29.7%	2.7%	5.4%	2.7%	5.4%	100.0%
	その他:							
i	基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	56.8%	35.1%	2.7%	0.0%	0.0%	5.4%	100.0%
	その他:							
j	昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	59.5%	24.3%	8.1%	2.7%	0.0%	5.4%	100.0%
	その他:							
k	おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	59.5%	24.3%	8.1%	0.0%	2.7%	5.4%	100.0%
	その他:							
l	お子さんの体調への気配りについては	56.8%	29.7%	5.4%	2.7%	0.0%	5.4%	100.0%
	その他:							
m	保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	56.8%	13.5%	16.2%	5.4%	0.0%	8.1%	100.0%
	その他:							

#### 問5 保育園の快適さや安全対策について

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	
a	施設設備については	27.0%	32.4%	18.9%	10.8%	2.7%	8.1%	100.0%
	その他:							
b	お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	51.4%	27.0%	13.5%	2.7%	0.0%	5.4%	100.0%
	その他:							
c	外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	43.2%	21.6%	10.8%	16.2%	2.7%	5.4%	100.0%
	その他:							
d	感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	45.9%	35.1%	10.8%	2.7%	0.0%	5.4%	100.0%
	その他:							

問6 園と保護者との連携・交流について

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答	
a	保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	62.2%	27.0%	5.4%	0.0%	0.0%	5.4%	100.0%
	その他:古い施設だが、よく手入れされ清潔である							
b	園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	56.8%	27.0%	5.4%	2.7%	2.7%	5.4%	100.0%
	その他:							
c	園の行事の開催日や時間帯への配慮については	56.8%	29.7%	5.4%	0.0%	2.7%	5.4%	100.0%
	その他:							
d	送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	40.5%	32.4%	16.2%	5.4%	0.0%	5.4%	100.0%
	その他:							
e	お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	45.9%	40.5%	2.7%	2.7%	2.7%	5.4%	100.0%
	その他:							
f	保護者からの相談事への対応には	51.4%	21.6%	13.5%	5.4%	2.7%	5.4%	100.0%
	その他:							
g	開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	56.8%	29.7%	5.4%	5.4%	2.7%	0.0%	100.0%
	その他:							

問7 職員の対応について

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答	
a	あなたのお子さんが大切にされているかについては	59.5%	24.3%	2.7%	8.1%	5.4%	0.0%	100.0%
	その他:							
b	あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでるかについては	64.9%	21.6%	5.4%	8.1%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他:							
c	アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	66.7%	27.8%	2.8%	2.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他:							
d	話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	64.9%	16.2%	8.1%	8.1%	2.7%	0.0%	100.0%
	その他:							
e	意見や要望への対応については	45.9%	32.4%	10.8%	5.4%	5.4%	0.0%	100.0%
	その他:							

問8 保育園の総合的評価

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答	
a	総合満足度は	54.1%	32.4%	5.4%	8.1%	0.0%	0.0%	100.0%

# 利用者本人調査

## 結果の特徴

### 【調査方法】

実施日：平成23年月12日12日

保育観察：調査員2名が乳児と幼児に分かれてクラスごとに「遊び」「食事」「排泄」「散歩の様子」など保育観察を行いました。

本人聞き取り調査：利用者本人調査は、予め保育園に依頼をした4歳1名、5歳4名、6歳1名に行いました。

### 【利用者本人調査の結果】

#### 全体のコメント

#### 1, 2歳児クラス食事の様子

職員は子どもに「今日は鶏肉の煮込みだよ」「お肉食べる？」「半分に減らしますか」「おててお膝をお願いします」と話しかけ、順番に配膳していきます。準備が整うと「一緒にいただきます」と挨拶してみんなで一緒に食べ始めました。

職員がご飯、おかず、汁物、麦茶の位置をそろえて置き、子どもは箸とスプーンのどちらかを選択して食べています。

「スプーン落ちちゃうよ」「もりもりたべてえらいねー」「もぐもぐだよ」「ちょっと大きいかな」と職員が声かけし、鶏肉を小さく切ったりスプーンに手を添えたりして子どもに援助しています。子どもはスプーンを持って口に運び、こぼしながらも自分で食器をおさえておかずやご飯を食べています。

#### 3歳児クラス食事の様子

2グループに分かれて8人ずつテーブルを囲んで座っています。職員が配膳しています。最初にアレルギー対応の子どもの前に緑のトレイのついた給食が置かれました。「先生が配るから並べてね」職員は一人ひとりの前にご飯、おかず、汁ものと順番に置いていきます。配膳が整うとテーブルの中央に小さなお花が置かれました。「ご飯ありましたか」「はい」「おかずありましたか」「はい」と職員が子どもたち全員に確認しています。食事が始まりました。全員がおはしを使っています。「今日何はいつた」と職員、「鶏肉、ニンジン」「大根、一番最初に食べた、大根苦手」と答える子ども、「〇ちゃんの大きいお口見たいんですけど」「ご飯食べたら力できるよ、お味噌汁は飲んだの」と食が進むよう職員は、子どもたち一人ひとりと会話しながら気配りの声かけをしています。子どもも「先生全部食べる、野菜さん食べる」等と楽しそうです。食事が終わった子どもはお茶碗を整理して、ワゴンに運んでいます。残したものは自分でボールに入れる子もいます。全部食べられた子どもはおかずのおかわりや、おにぎりを食べています。「おにぎりあと4個しか残ってないよ」と子どもが話しています。

#### 4歳児クラス食事の様子

3グループに分かれて6人ずつテーブルを囲んでいます。各グループでは子どもがテーブルを拭いています。白い上着と帽子をかぶった給食当番さんがお茶やご飯を運び、職員と一緒に配膳しています。配膳が終わると当番の子どもたちが皆の前に立ち「姿勢を良くしてください、今日のメニューをいいます」と職員のサポートで発表しています。「いただきます」と皆で唱和して手を合わせてから、食事が始まりました。「どれから食べるの」「お肉からさき」「大根もうなくなった」など話しながら、食べています。ご飯を食べ終わると自主的に歯磨きを終え、着替え、コーナーで本を読んだり、ブロックを楽しんだりしている子たちがどんどん増えてきます。一方、ゆっくりと食事を味わっている子もいます。職員が、声をかけています。「すみません。時計を見てください。もうじき12時です。12時5分になる前に終わらしましょう。」「時計さんを気にしながら食べると早いね」など子どもに声かけしています。職員の助言で、子どもたちは、食事や着替えをスムーズに終えています。

#### 5歳児クラス食事の様子

子どもたちはベランダのマットで、職員から「お尻をつけないでできるようにしよう」と声をかけられ、中腰で靴をはたいて下駄箱にしまい、足を洗って保育室に入って行きます。お当番の子どもは帽子と白衣を身につけ、職員と一緒に厨房に向かいます。

クラスに給食が届くと職員が「ご飯少な目がいい人手をあげて」と声掛けし手をあげている子どもの所にお当番の子どもが配膳します。

ご飯やみそ汁、おかず、麦茶を配り、職員から今日のメニューと栄養士さんからのお手紙を読みます。「麩は昔中国という国から伝わってきたんだよ。お味噌汁に入っている麩は焼き麩と言って煮物やなべ物に使うよ。粉からできているよ。」子どもたちは座って話を聴き、挨拶して楽しく食べ始めました。食べ終わってしまった子どもはおにぎりのおかわりももらっていました。

**[質問項目別の特徴]**

**<遊びについて>**

保育園の遊びは楽しいと答えています。レゴブロック、ままごと、かるた、円形ドッチボールが楽しいと回答しています。

**<食事について>**

全員お替りはできると答えています。給食のメニューは、から揚げや魚が好き、お替りは遅くなるとダメと答えています。

給食は残せますかの設問には具合の悪い時やたまに残すと答えています。

**<排泄について>**

トイレはいつでも行かれると答えています、食事の時は行かれないと回答しています。

**<清潔・健康について>**

おもらしをした時や汗をかいたり泥んこで汚れた時は、職員が着替えを手伝ってくれるかの設問に対しては、自分で行う場合

もあるが、みな手伝ってくれると回答しています。

**<権利について>**

昼寝をしたくない時、眠れない時はゆっくり体を休め、静かに過ごすと回答しています。

**<職員について>**

先生は話を聴いてくれるし、優しいと回答しています。また、おともだちをぶったりしたら怒ると答えています。

**<特別活動について>**

プールやリズム、クッキングが楽しいと答えています。リズムではウサギやカメになったり、自転車やブリッジにもなると答えています。

## 事業者からの意見

今回第三者評価受審は、決定から受審までが短期ではありましたが、全職員で共通の視点で話し合いに取り組む良い機会となりました。保育の基本に戻り一つ一つの項目にそって、意見を出し合っていく中では、受け取り方がそれぞれ微妙にずれていた内容もあり、全体で話し合い共通理解していききました。評価していただいた内容に関しては、早速新年度に向けての検討課題として話し合いを進め具体的な活動にしていききました。すぐに取り組める内容は、実行しました。

第三者評価を受け様々な学びがありそれらを今後の保育に園運営に活かしていきたいと思えます。職員の感想で誰もが話していたことは、わかりやすく明確な記録、これは自己評価にもつながることと再認識しました。

今後も利用者の声に耳を傾け、きめこまやかな保育の取り組みを継続していきます。